

箕面市立病院新築移転に伴う病院再編計画（案）の概要

令和6年2月20日時点・箕面市

【1 病院再編計画の経緯】

- 施設及び設備の老朽化や、施設構造上の制約により最新の医療機器に対応できないなどの課題があったことから、平成29年（2017年）12月の箕面市議会で市立病院の移転建替が決定した。
- 令和3年（2021年）2月には、「箕面市新市立病院整備審議会」を設置し、新病院のあり方についての議論を本格化、令和4年（2022年）8月には、新病院のめざす姿や、担うべき役割と医療機能、運営手法や整備手法について、答申が出された。
- これまでの検討経緯や答申内容を十分に踏まえ、「箕面市新市立病院整備基本構想」を策定し、この基本構想達成のため、民間病院との再編統合による増床と指定管理者制度による新病院の運営をめざすこととした。

【2 再編計画】

（1）基本的な考え方

- ① 今後の医療需要への対応
新病院では、現在の医療機能を継続し、診療科の新設等も含め、診療体制を見直しながら、更に高度で質の高い医療を提供し続けるとともに、将来の医療需要に対応していくことが必要。
- ② 公立病院としての役割
新病院の整備にあたっては、地域の救急要請に対応するための体制の充実が必要。また、「箕面市災害医療センター」として広域災害時に必要な医療を提供する役割、箕面市における地域住民の命の砦としての役割の継続・充実が必要。
- ③ 持続可能な医療提供体制の確立
新病院がめざすべき姿や医療機能を明確化するとともに、「機能分化・連携強化」によりそれらの実現を図り、持続可能な医療提供体制を確立することが必要。
- ④ 早期の建替え
当院は築43年が経過し、施設の老朽化に伴う不具合が多く発生している。安全かつ安心な病院運営を図るとともに、快適な療養環境を提供するため、早期の新病院整備が必要。

（2）病院の再編

箕面市立病院単独で新病院整備を行う場合、整備できる病床数は267床が上限となり、現状の医療提供水準の維持すら難しいことから、医療法施行規則第30条の32第2号（複数の病院の再編統合に向けた医療計画制度の特例）に基づき、医療法人協和会協和会病院との再編統合により新病院を整備する。

医療機関名	再編前（病床機能）		病床の増減
	病床数	機能	
箕面市立病院	93床	（高度急性期）	0床
	174床	（急性期）	
	※ 50床	（回復期）	
計	317床		73床
協和会病院	59床	（急性期）	▲ 59床
	124床	（回復期）	▲ 124床
	118床	（慢性期）	▲ 118床
計	301床		▲ 301床
合計	618床		▲ 228床

※医療法第30条の32の2第1項に定める特定病床（リハビリテーション）…移転開設のため継続不可

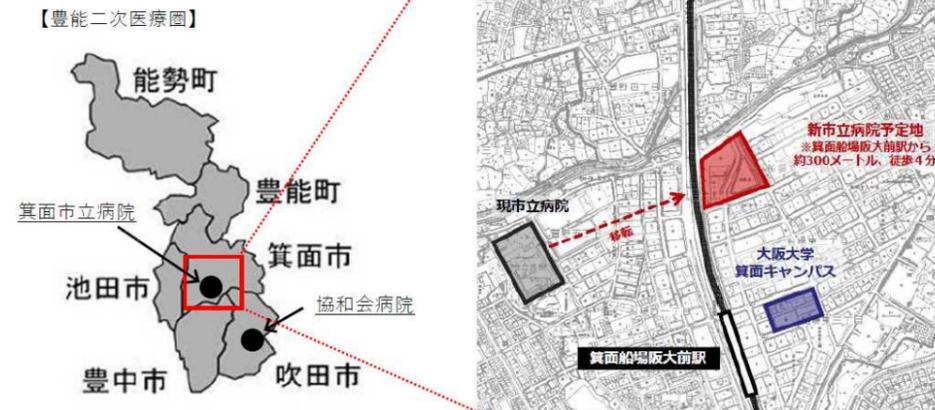
再編統合後（病床機能）	
93床	（高度急性期）
297床	（急性期）
390床	

（3）再編による効果

- ① 今後の医療需要への対応
箕面市内唯一の二次救急告示病院として、救急部門はもとより、診療科体制の充実強化を図り、「断らない救急」を実践する。
- ② 小児救急の充実
豊能広域こども急病センターとも連携し、小児救急を実施するとともに、小児専用病床を確保する。
- ③ 新興感染症拡大時の医療体制の充実
国内感染発生初期から入院・外来の診療体制を整える。特に呼吸器・免疫内科、感染症内科を新設することで、中等症患者はもちろん、重症患者への対応も行う。
- ④ がん診療の充実
大阪府がん診療拠点病院として、引き続き、ロボット支援手術等を活用するとともに、手術、化学療法に加え、新たに放射線治療を実施する。あわせて、緩和ケア内科を新設、急性期病床で緩和ケアも実施することで、がん治療から日常生活・仕事への復帰までを支援する体制を構築し、がん診療の充実・強化を図る。
- ⑤ 産前産後ケアを含め分娩病床等の充実
特定妊婦、合併症への対応をはじめ、妊娠初期から産後ケアまでしっかりと支援体制を整える。また、助産施設としても、その役割を果たしていく。

【3 再編統合後の医療提供体制】

（1）病院の位置（下図参照）



（2）診療科目・病床数

- 診療科目：30診療科
内科（総合）、消化器内科、循環器内科、血液内科、糖尿病・内分泌代謝内科、神経内科、呼吸器・免疫内科、腎臓内科、精神科、小児科、外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺・甲状腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、放射線治療科、病理診断科、救急科（ER）、麻酔科、緩和ケア内科、感染症内科、※新設科目
- 病床数：390床

（3）地域医療構想との整合性等

豊能二次医療圏では、呼吸器系、循環器系、消化器系などの高齢者疾患を中心とする医療需要の増加が見込まれるため、病床過剰地域である同圏域で228床（特定病床50床を含む）を減床する民間病院との再編統合を行い、急性期機能や救急医療体制等を充実・強化し、公立病院として今後の医療需要に対応する。従来の回復期リハビリテーション機能については、地域の医療機関と綿密に連携して対応することとする。
また、豊能二次医療圏で課題となっている圏域外への救急搬送や、救急不応需の解消に向け、貢献していく。